

内閣府CSTI木曜会合
「総合知活用事例紹介」

高齢化社会に対応した持続的で 柔軟な地域医療提供の実現に向けた ソーシャルデザインの共同研究

2023年3月9日

富士通株式会社

富士通研究所 研究本部

コンバーGINGテクノロジー研究所

猪又 明大



Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていくことです。



UVANCEを支えるテクノロジー

○ 5つの技術領域に研究開発リソースを集中



Vertical Areas

Sustainable Manufacturing

環境と人に配慮した循環型で
トレーサブルなものづくり

Consumer Experience

生活者に多様な体験を
届ける決済・小売・流通

Healthy Living

あらゆる人々のウェルビーイングな
暮らしをサポート

Trusted Society

安心・安全でレジリエント
な社会づくり

Horizontal Areas

Digital Shifts

データドリブン 働き方改革

Business Applications

クラウドインテグレーション アプリケーション

Hybrid IT

クラウド セキュリティ

Key Technologies



Computing



Network



AI



Data & Security



Converging
Technologies



Converging Technologiesの理念 FUJITSU

**最先端
デジタル技術**

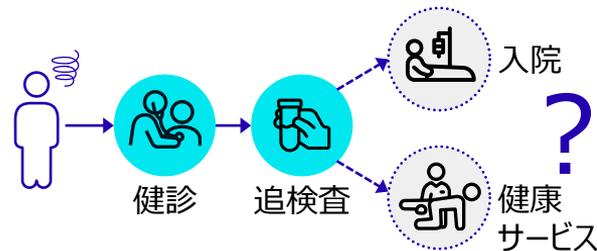
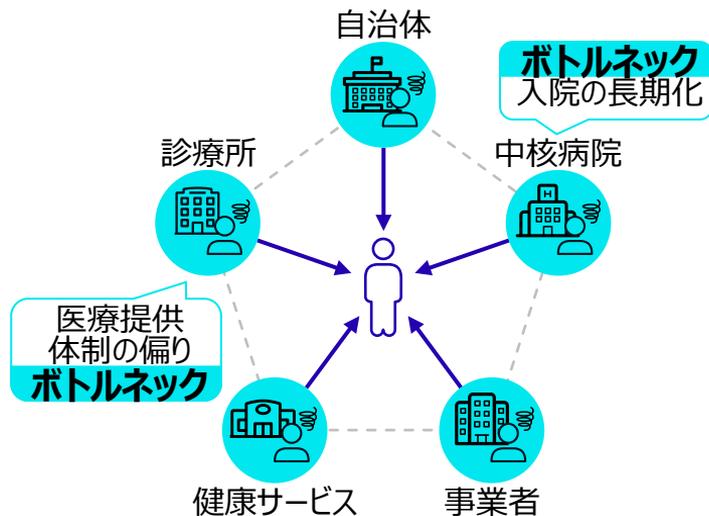


人文社会科学

デジタル技術と人文社会科学の融合により、
人と社会を深く理解して働きかけ社会課題を解決する

デジタル技術 × 実証経済学についてご紹介

世界で高齢化が進む中で医療・健康サービス提供の持続が課題に



- 持続的で柔軟なサービス提供ができていない
 - 専門範囲を超えると連携が難しくなり、効率や効果が低下する。
- 患者が全体を見通せず安心感がない
 - 患者にとっても、複数のサービスを跨る場合に、自分自身が受けられるサービスが見通せず不安を感じる

地域全体の医療・健康サービスの流れを見据え
患者とサービス提供の両方の観点で、ボトルネック解消が必要

社会資源の効率活用

地域にあわせた社会資源の有効活用

患者へのサービス

患者のケアがスムーズで質が高い



患者中心の医療・健康サービスの流れ＝ケアパスウェイに着目
そのシーンごとの最適化や、全体の改善が可能ではないか？



○ケアパスウェイをデジタル化・設計・提供

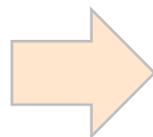
- 患者が受ける医療・健康サービスの流れをデジタル化（個人、地域のケアパスウェイ）
- 実証経済学の知見に基づきケアパスウェイを分析、ボトルネックを解決するケアパスウェイを設計

○ケアパスウェイの社会実装に向けた合意形成

- 実証経済学の方法論を取り込み、各ステークホルダーへの改善提案
- 関係構築や理解、市民などの社会での受容性

①

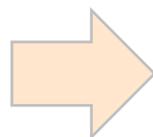
医療サービスのボトルネックの解消のためには、
現場における課題や仕組みの理解が必要



社会課題に取り組んでこられた先生から学んだ
現場の実態や課題解決への理論を取り入れることで
地域にあった解決策が立案できるのではと考えた。

②

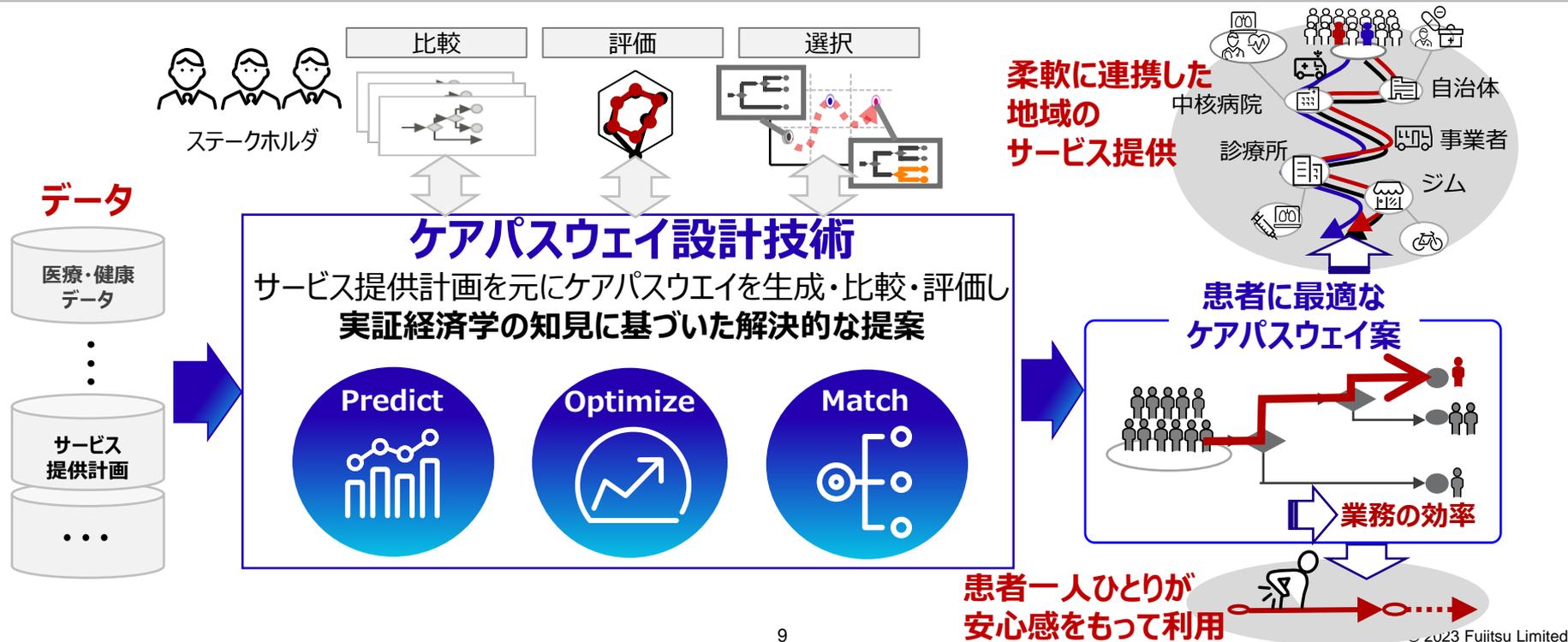
ケアパスウェイの社会実装のためには、
様々なステークホルダの理解が必要



経済学の方法論を踏まえたデジタル技術による
施策の比較・評価・提案を通じて
合意プロセスの改善・効率化が図れるのではと考えた。

ケアパスウェイ設計技術

一人ひとりの患者を考慮した最適なケアパスウェイの設計により
全体効率と患者のケアを両立した提供体制の実現を目指す



- 高齢化社会に対応した持続的で柔軟な地域医療提供の実現に向けて、富士通と津田塾大学がソーシャルデザインの共同研究を開始（2022年8月25日）

<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/08/25.html>



企業と人文社会科学系の大学との技術の融合による社会課題解決 社会課題を抱えている自治体等の現場を理解しているパートナーの協力

- 知見を持ち寄りディスカッションを重ね、理解を進めている
 - **実証経済学(津田塾大学)** 病床減と都市空間の再編による健康イノベーション
 - **デジタル技術(富士通)** 医療・健康データから患者の状態を予測するAI
 - **医療政策(山形大学)** 山形県における医療提供体制の知見
- 今後の展望
 - 地域完結型医療の構築が進められている山形県の医療・健康データを用いて検証
 - その成果を山形県などの地域医療提供において適用

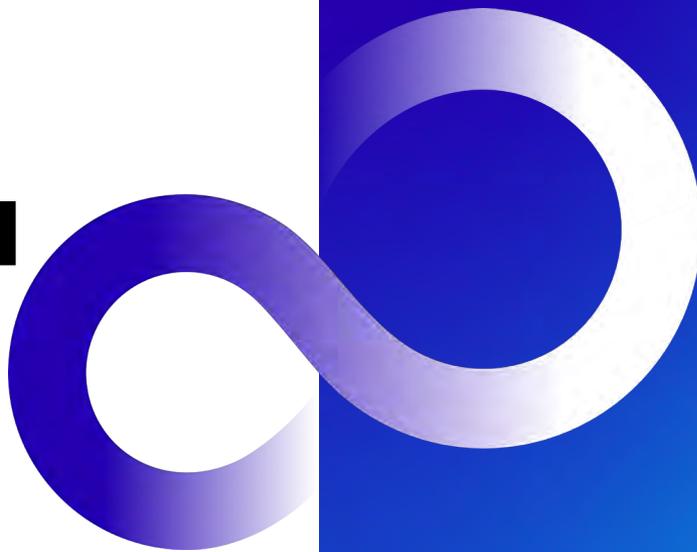
Thank you

富士通株式会社

富士通研究所 研究本部

コンバーシングテクノロジー研究所

contact-social_design-pr@cs.jp.fujitsu.com



社会課題を解決するための施策の 効果・リスク予測と最適化



データ基点の施策立案の支援 (EBPM※) と
デジタルによるサービス実施、効果検証

※EBPM: Evidence Based Policy Making

経済学



経済学の知見に基づく
制度や資源配備の設計

デジタル技術



データに基づく施策の効果予測と
提供サービスの最適化

一人一人に寄り添う制度設計を支援

地域の医療サービスの質
と効率化の両立で持続
可能な医療体制を実践

実証経済学
の方法論

ケアパスイイ
の設計技術

「高齢化社会に対応した持続的で柔軟な地域医療提供の実現に向け
て、富士通と津田塾大学がソーシャルデザインの共同研究を開始」
(2022年8月25日)

パンデミックや災害時に
生活困窮者に対して、
迅速な社会保障サービスを提供



住んでいると自然に
Well-beingを享受できる
社会・都市をデザイン

